

令和5年度

(2023年度)

教育実施計画書

(カリキュラム・ポリシー)

中央工学校

建築科

目 次

I. 教 育 目 的	1
II. 指 導 目 標	1
III. 指 導 要 領	1
IV. 成 績 評 估 方 法 · 基 準	2
V. 教 科 構 成 表	3
VI. 教 科 別 教 育 實 施 計 畫 書	5
VII. 教 科 別 教 科 書 一 覽	25
VIII. 教 具 教 材 一 覽	26

I. 教育目的

建築科では建築設計・住居設計・構造設計・店舗設計・建築施工などの分野で活躍出来る基本的な専門知識・専門技術を修得した技術者を養成し、人間涵養教育を通じて豊かな社会性を有する技術者を養成することを目的とする。具体的には、1年次に実習教科目である設計製図を軸として木造および鉄骨造の基礎技術を習得し、2年次前期に鉄筋コンクリート造の基礎を学んだ上で構造図と施工図まで含んだより専門知識を習得し、後期は卒業設計として公共施設の意匠設計をまとめる。特に現在建築関連部門の業務に従事し、建築士・建築施工管理技士・建築積算士・インテリアプランナー・その他建築に関連した資格取得を目指す技術者、新たな意志で学びたい人に対し、系統的に専門知識を修得させ、高いレベルの技術力と志操堅固な建築技術者の育成を目的としている。

II. 指導目標

1. 設計製図のもつ総合性に立脚し、建築の「理論と実際」を系統的に理解させ、卒業後は、設計・構造・施工の各分野に適応しうる技術者となる。
2. 卒業して多くの学生が受験をする二級建築士、2級建築施工管理技士に合格することのできる卒業生の育成を目指す。
3. 設計における手描きの作図技術と、各種CAD、BIMの操作方法を理解し、実社会において即戦力となる技術を習得する。
4. 学習要項で推奨する以下の各種資格を在学中に取得することで、建築技術者としてのスキルを身に付ける。

推奨資格	目標合格率・取得率
2級建築施工管理技士補	30%
建築積算士補	50%
福祉住環境コーディネーター3級	30%

III. 指導要領

建築科は以下のような方針を基に教育指導に当たる。

1. 木造建築物・鉄骨造建築物・鉄筋コンクリート建築物の意匠（計画、設計）・構造・施工を専門科目の基本として編成し、実践的・実務的知識を基礎から応用まで系統的に習得させる。
「設計製図のできる建築技術者の養成」を目標に、その指導を重視する。
2. 本学科の学生は建築科卒業をもって二級建築士および一級建築士の受験資格を得ることができる。（一級建築士の登録の際には4年の実務経験が必要）。また在学中に2級建築施工管理技術検定の第一次検定を受験することができ、合格すると国家資格として「2級建築施工管理技士補」と称する事ができる。また2年の実務経験で2級建築施工管理技術検定の第二次検定を受験することができ、合格すると「2級建築施工管理技士」の国家資格を取得することが出来る。さらに5年の実務経験で1級建築施工管理技士の受験資格も得られる。指導に当たってはこのことを充分認識した上で、受験本位の建築士予備校的存在にならないよう留意し、基本的な技術能力と応用力の育成にも努める。
3. 日進月歩で建築技術が進化する中で、企業と連携した教育を行うことで、職業に対して即戦力となり得る実践的な授業を実施する。

IV. 成績評価方法・基準

学則において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。各科で定める一般科目や専門科目は定期試験（レポート課題含む）により成績評価を行っている。実習科目では出席率や課題内容を総合的に評価している。また、卒業設計や進級課題では、校長の承認を得て総合的に評価を行っている。

100点満点における60点以上を合格とし、履修が認定される。各科目で出席率85%未満の生徒についてはその成績評価の対象としない。

V. 教科構成表

必修選択の別	教科区分	教 科 目	第1学年		第2学年		授業時数 合 計	実務家教員 担当教科
			前期	後期	前期	後期		
必修 科目	一般科目	数 学	2				40	
		合 宿 研 修	(36)				(36)	
	専門 科目	建 築 計 画	2	2			76	○
		環 境 工 学				2	36	○
		建 築 史			2		40	○
		建 築 設 備			2	2	76	○
		建 築 法 規	2	2			76	○
		構 造 力 学	2	2			76	○
		構 造 設 計			2		40	○
		建 築 一 般 構 造	2	2			76	○
		建 築 材 料	2				40	○
		建 築 施 工		2	2		76	○
		建 築 積 算			2	2	76	○
		C A D 演 習		2			36	○
		B I M 演 習			2		40	○
		インテリア設計				2	36	○
		建築士設計製図				4	72	○
		プレゼンテーション	【48】	【48】			【96】	
	総 合 演 習			【48】	【48】	【96】		
	実習 科目	設 計 製 図	8	8	8		464	○
卒 業 設 計					8	144	○	
選択 科目	研修 科目	国 内 建 築 研 修	《36》		《36》		《36》	
		海 外 建 築 研 修	《72》		《72》		《72》	
週 授 業 時 数			20	20	20	20	1712	
週 数			20	18	20	18	76	
年間（38週）授業時数			856		856		1712	

※《 》は任意選択 ()は特別授業 【 】は土曜授業

一般科目	講義	数学	1 学年	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築に必要不可欠な数学的素養を演習を通して理解する。 前期目標：建築に関連した単位・数式の基礎計算を通して理解できるようになる。</p>		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1	数学 概論		ガイダンス、基礎数学力の確認	
2	数式の基礎知識(1)		近似値と誤差	
3	数式の基礎知識(2)		有効数字と有効桁数	
4	数式の基礎知識(3)		式と計算	
5	数式の基礎知識(4)		式の展開	
6	数式の基礎知識(5)		因数分解(1)	
7	数式の基礎知識(6)		因数分解(2)	
8	数式の基礎知識(7)		分数式の計算(1)	
9	数式の基礎知識(8)		分数式の計算(2)	
10	数式 の 概念(1)		比と比例式(1)	
11	数式 の 概念(2)		比と比例式(2)	
12	数式 の 概念(3)		無理式 の 概念	
13	数式 の 概念(4)		無理式 の 計算、問題演習	
14	指数と対数(1)		指数の概念	
15	指数と対数(2)		指数の計算、問題演習	
16	指数と対数(3)		対数の概念	
17	指数と対数(4)		対数の計算、問題演習	
18	三角関数(1)		弧度法と60分法	
19	三角関数(2)		三角関数の定義	
20	三角関数(3)		三角関数の基本規則	
後 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	建築計画	1学年	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：設計製図との関連を踏まえて、建築を計画する基本的能力を養う。 前期目標：居住・学校教育事務所・社会教育施設の機能に即した計画の理論・手法を理解する。 後期目標：医療福祉・商業施設、都市計画の機能に即した計画の理論・手法を理解する。</p>		
実務家教員の実務経験		設計監理業を主たる業務とし、住宅から公共施設まで幅広い建築設計業務の実績を有している。		
指 導 内 容				
前 期（2時限）				
週	教程	教程内容		
1	計画一般概論	ガイダンス・計画各論・敷地と計画の関係		
2	住居施設(1)	住様式と住宅の変化		
3	住居施設(2)	戸建住宅 配置計画		
4	住居施設(3)	戸建住宅 平面の類型・各室の計画		
5	住居施設(4)	集合住宅 団地計画		
6	住居施設(5)	集合住宅 集合住宅の種類		
7	住居施設(6)	住宅の細部計画		
8	教育施設(1)	教育施設の変遷		
9	教育施設(2)	幼稚園・保育所の計画		
10	教育施設(3)	小中学校		
11	教育施設(4)	教育施設の細部計画		
12	事務所施設(1)	商業施設概説		
13	事務所施設(2)	事務所ビルの変遷		
14	事務所施設(3)	事務所ビルの計画		
15	社会教育施設(1)	生活圏とコミュニティ施設		
16	社会教育施設(2)	図書館の計画		
17	社会教育施設(3)	美術館・博物館の変遷と計画		
18	社会教育施設(4)	美術館・博物館の細部計画		
19	社会教育施設(5)	コミュニティセンター・公民館		
20	社会教育施設(6)	複合施設		
後 期（2時限）				
週	教程	教程内容		
1	医療施設(1)	高齢社会と建築計画		
2	医療施設(2)	病院・高齢者施設の種類・計画		
3	商業施設(1)	劇場・音楽ホールの変遷・計画		
4	商業施設(2)	百貨店・スーパーマーケットの変遷と計画		
5	商業施設(3)	商業施設		
6	商業施設(4)	駐車場の計画		
7	都市計画概要(1)	外部空間の把握・外部空間の計画手法		
8	都市計画概要(2)	住宅地の外部空間		
9	自然現象と計画(1)	自然現象の知覚・視覚と建築		
10	自然現象と計画(2)	寒暑感覚と建築・聴覚と建築		
11	演習(1)(住居)	演習		
12	演習(2)(教育施設)	演習		
13	演習(3)(事務所)	演習		
14	演習(4)(図書館)	演習		
15	演習(5)(美術館)	演習		
16	演習(6)(音楽ホール)	演習		
17	演習(7)(外部空間)	演習		
18	演習(8)(自然現象)	演習		

専門科目	講義	環境工学	2学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築と環境のかかわりを学習し、快適な建築環境を得るための方法を理解する。</p> <p>後期目標：室内空気汚染・換気・日照・日射・採光・照明・色彩・断熱・結露・体感温度・騒音・音響について、理論的裏付けを含めて理解する。</p>		
実務家教員の実務経験		建築設計を中心とした業務に携わり、環境共生において幅広い知識を持ち備えている。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期（2時限）				
週	教程	教程内容		
1	建築環境工学の概論	環境工学の目的		
2	室内空気汚染と換気(1)	室内汚染物質		
3	室内空気汚染と換気(2)	空気汚染の基準		
4	室内空気汚染と換気(3)	自然換気設備・機械換気設備		
5	日照と日射(1)	日照		
6	日照と日射(2)	太陽位置		
7	日照と日射(3)	日影		
8	採光と照明(1)	照度基準・昼光率		
9	採光と照明(2)	照明方式・演色		
10	色彩(1)	表色		
11	色彩(2)	対比		
12	断熱と結露防止(1)	熱貫流		
13	断熱と結露防止(2)	断熱		
14	断熱と結露防止(3)	結露		
15	体感温度	温熱環境指標・有効温度		
16	騒音防止と音響設計(1)	音の性質		
17	騒音防止と音響設計(2)	騒音・吸音		
18	騒音防止と音響設計(3)	室内音響設計		

専門科目	講義	建築史	2 学年	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築の歴史的発展過程を理解し、建築界の将来を展望できる能力を習得する。</p> <p>前期目標：日本・西洋・近代・現代における建築歴史を理解する。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>建築学的歴史探求の分野においての第一人者であり、学問的業績に加え人物的にも学生指導に随一の指導力を発揮される講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程	教程内容		
1	建築史を学ぶ意義	建築史序論		
2	日本建築史(1)	古代の建築		
3	日本建築史(2)	平安時代の建築		
4	日本建築史(3)	中世の建築(1)		
5	日本建築史(4)	中世の建築(2)		
6	日本建築史(5)	近世の建築(1)		
7	日本建築史(6)	近世の建築(2)		
8	日本の近代建築史(1)	産業革命		
9	日本の近代建築史(2)	近代建築の思潮		
10	西洋建築史(1)	エジプト建築		
11	西洋建築史(2)	オリエン特建築・ギリシャ建築		
12	西洋建築史(3)	ローマ建築・ビザンチン建築		
13	西洋建築史(4)	イスラム建築・ロマネスク建築・ゴシック建築		
14	西洋建築史(5)	ルネッサンス建築		
15	西洋建築史(6)	バロック建築・ロココ建築		
16	西洋建築史(7)	ネオクラシズム建築・ネオバロック建築		
17	西洋の近代建築史(1)	産業革命		
18	西洋の近代建築史(2)	近代建築様式		
19	西洋の近代建築史(3)	国際建築		
20	西洋の近代建築史(4)	近代建築の3巨匠		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	建築設備	2 学年	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：高度化する建築設備に対応し、設備の基礎を中心に学ぶ。また、実例図集を使用し設備計画を行う事により、合理的・効果的な設備計画に対する能力を習得し、建築設計に活かすことが出来るようになる。</p> <p>前期目標：給排水衛生設備について理解する。</p> <p>後期目標：空気調和換気設備・電気設備について理解する。</p>		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰され、建築設備に関する豊富な経験を有している。		
指 導 内 容				
前 期（1 時限）				
週	教程	教程内容		
1	建築設備概要	建築設備の役割		
2	環境と設備	地球環境と建築設備・設備計画		
3	給水設備(1)	給水設備の概要		
4	給水設備(2)	給水システム・給水機器		
5	給水設備(3)	上水の汚染と防止・給水管材料		
6	給湯設備(1)	給湯設備の概要		
7	給湯設備(2)	給湯方式		
8	排水通気設備(1)	排水・通気設備の役割		
9	排水通気設備(2)	通気方式		
10	排水通気設備(3)	トラップと間接排水・雨水排水		
11	排水処理設備(1)	排水処理設備の役割・		
12	排水処理設備(2)	浄化槽		
13	ガス設備(1)	ガスの種類と供給方式		
14	ガス設備(2)	機器と給排気		
15	衛生器具設備(1)	衛生器具設備の概要		
16	衛生器具設備(2)	衛生器具設備の設置計画		
17	消火設備(1)	消火設備の基本事項		
18	消火設備(2)	屋内消火栓設備		
19	消火設備(3)	スプリンクラー消火設備・その他の消火設備		
20	まとめ	まとめ 実験室内設備説明		
後 期（1 時限）				
週	教程	教程内容		
1	空気調和設備(1)	空気調和設備の目的としくみ		
2	空気調和設備(2)	空気調和と室内環境		
3	空気調和設備(3)	空調負荷		
4	空気調和設備(4)	空気調和方式の種類・特徴		
5	空気調和設備(5)	熱源・搬送設備		
6	空気調和設備(6)	空気調和機		
7	空気調和設備(7)	換気設備		
8	空気調和設備(8)	排煙設備・自動制御設備		
9	電気設備(1)	電気設備の役割と構成・関連法規		
10	電気設備(2)	受変電設備		
11	電気設備(3)	幹線設備・動力設備		
12	電気設備(4)	自家発電設備・蓄電池設備		
13	電気設備(5)	照明設備・コンセント設備		
14	電気設備(6)	情報・通信設備		
15	防災設備(1)	自動火災報知設備		
16	防砂設備(2)	防災照明設備・避雷設備		
17	搬送設備	エレベータ・エスカレータ設備		
18	まとめ	まとめ		

専門科目	講義	建築法規	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：建築物に関わる基本的な建築基準法等の知識を系統的、関連的に習得し、設計・計画に当たっての運用的な能力を活かすことが出来るようになる。</p> <p>前期目標：個々の建築物単位に適用する単体規定、敷地単位に適用する集団規定の容積率・建蔽率を理解する。</p> <p>後期目標：集団規定の高さ制限等、防火規定、避難規定、制度規定と関連法規について理解する。</p>			
実務家教員の実務経験	設計事務所に勤務され、設計監理業務を通して法令に関する造形が深い講師である。			
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	法の体系と構成・法令、他		法令の構成他	
2	総則	用語の定義(1)	特殊建築物・主要構造物、他	
3		用語の定義(2)	延焼のおそれのある部分、他	
4		用語の定義(3)	耐火建築物・敷地・地階、他	
5		面積・高さの算定(1)	建築面積、延べ面積、他	
6		面積・高さの算定(2)	建築物の高さ・階数、他	
7	単体規定	一般構造(1)	耐火建築物等とすべき建築物、他	
8		一般構造(2)	居室の採光、他	
9		一般構造(3)	居室の換気・居室の天井高、他	
10		一般構造(4)・建築設備	階段等・便所、他	
11	単体規定	構造強度(1)	木造全般	
12		構造強度(2)	木造の壁量計算、他	
13		構造強度(3)	組積造、補強コンクリートブロック造	
14		構造強度(4)	鉄骨造、鉄筋コンクリート造、他	
15		構造強度(5)	構造計算	
16	集団規定	道路関係	道路の定義、他	
17		用途地域	用途地域、他	
18		容積率(1)	容積率	
19		容積率(2)	容積率緩和規定、他	
20		建蔽率	建蔽率、他	
後 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	集団規定	高さ制限(1)	絶対高さ・道路高さ制限(1)	
2		高さ制限(2)	道路高さ制限(2)	
3		高さ制限(3)	隣地高さ制限	
4		高さ制限(4)	北側高さ制限	
5		日影規制	日影規制	
6		防火地域 ※単体規定	防火地域・準防火地域 ※法 22 条指定区域	
7	単体規定	防火規定(1)	防火壁・防火区画(1)	
8		防火規定(2)	防火区画(2)、他	
9		防火規定(3)	内装制限	
10	単体規定	避難規定(1)	廊下の幅・直通階段の設置・2以上の直通階段	
11		避難規定(2)	避難階段・特別避難階段、他	
12		避難規定(3)	排煙設備	
13		避難規定(4)	非常用の照明装置・非常用の進入口、他	
14	制度規定	確認制度(1)	確認申請	
15		確認制度(2)	完了検査・中間検査	
16		各種建築手続き	建築工事届、他	
17	関連法規	その他の法律(1)	建築士法・都市計画法・消防法・バリアフリー法	
18		その他の法律(2)	耐震改修法・住宅の品質確保の促進等に関する法律・建設業法、他	

専門科目	講義	構造力学	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：建築物を安全に設計するために必要な構造の基本的知識について、演習を交えて理解する。</p> <p>前期目標：建築物に作用する力やつり合いを理解し、静定構造物の反力計算ができるようになる。</p> <p>後期目標：静定構造物の応力・応力度の計算と、たわみ・座屈などの変形計算ができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>構造設計事務所に勤務され、構造関連科目に関する知識が豊富で、構造力学・構造計算に関する高い教授力を持っている。</p>			
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	構造力学概論		構造力学の意義と概要	
2	力の基礎(1)		表現・符号・効果・単位	
3	力の基礎(2)		力のモーメント・合力	
4	力の基礎(3)		力のモーメント・合力	
5	力の基礎(4)		モーメント演習	
6	力の基礎(5)		荷重	
7	力の釣り合い(1)		釣り合いとは	
8	力の釣り合い(2)		釣り合い条件	
9	構造物の支点反力(1)		力学モデル・支点・反力	
10	構造物の支点反力(2)		解法手順	
11	構造物の支点反力(3)		単純梁(1)	
12	構造物の支点反力(4)		単純梁(2)	
13	構造物の支点反力(5)		単純梁(3)	
14	構造物の支点反力(6)		片持梁(1)	
15	構造物の支点反力(7)		片持梁(2)	
16	構造物の支点反力(9)		静定ラーメン(1)	
17	構造物の支点反力(10)		静定ラーメン(2)	
18	構造物の支点反力(11)		静定ラーメン(3)	
19	構造物の支点反力(12)		支点反力演習(1)	
20	構造物の支点反力(13)		支点反力演習(2)	
後 期 (2 時限)				
週	教程		教程内容	
1	構造物の応力解析(1)		応力の種類、解法手順	
2	構造物の応力解析(2)		単純梁(1)	
3	構造物の応力解析(3)		単純梁(2)	
4	構造物の応力解析(4)		片持梁(1)	
5	構造物の応力解析(5)		片持梁(2)	
6	構造物の応力解析(6)		静定ラーメン(1)	
7	構造物の応力解析(7)		静定ラーメン(2)	
8	トラスの応力解析(2)		節点法による応力の求め方(1)	
9	トラスの応力解析(3)		節点法による応力の求め方(2)	
10	トラスの応力解析(4)		切断法による応力の求め方(1)	
11	トラスの応力解析(5)		切断法による応力の求め方(2)	
12	構造物の断面性能(1)		断面 1 次モーメント	
13	構造物の断面性能(2)		断面 2 次モーメント	
14	構造物の断面性能(3)		断面係数	
15	応力度・変形(1)		軸応力度、曲げ応力度、せん断応力度、許容応力度	
16	応力度・変形(2)		座屈荷重、座屈長さ、変形、たわみ	
17	不静定構造物(1)		たわみ角法	
18	不静定構造物(2)		固定モーメント法	

専門科目	講義	構 造 設 計	2 学 年	前 期
目的・目標 (指標)		<p>目 的：実際の構造物である不静定構造物の応力計算と断面算定の手法を、演習を交えて理解する。</p> <p>前期目標：鉄筋コンクリート構造や鉄骨構造について、構造計画や構造計算の流れを理解し、応力計算や部材の断面算定ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>構造設計事務所に勤務し、構造設計を主たる業務とし、構造関連の指導における知識と経験を有している。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (2時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	不静定構造物の応力計算		不静定構造応力計算演習	
2	構造設計概要(1)		構造設計概要	
3	構造設計概要(2)		固定荷重と積載荷重	
4	構造設計概要(3)		風圧力と地震力	
5	構造設計概要(4)		C, Mo, Qo の算定	
6	構造設計概要(5)		柱軸力・許容応力度	
7	鉄筋コンクリート構造の設計(1)		鉄筋コンクリート造概要	
8	鉄筋コンクリート構造の設計(2)		スラブの設計(1)	
9	鉄筋コンクリート構造の設計(3)		スラブの設計(2)	
10	鉄筋コンクリート構造の設計(4)		スラブの設計演習	
11	鉄筋コンクリート構造の設計(5)		小梁の設計(1)	
12	鉄筋コンクリート構造の設計(6)		小梁の設計(2)	
13	鉄筋コンクリート構造の設計(7)		小梁の設計演習	
14	鉄骨構造の設計(1)		鉄骨造概要	
15	鉄骨構造の設計(2)		引張材の設計(1)	
16	鉄骨構造の設計(3)		引張材の設計(2)	
17	鉄骨構造の設計(4)		圧縮材の設計(1)	
18	鉄骨構造の設計(5)		圧縮材の設計(2)	
19	鉄骨構造の設計(6)		梁材の設計(1)	
20	鉄骨構造の設計(7)		梁材の設計(2)	
後 期				
週	教 程		教 程 内 容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	建築一般構造	1学年	前・後期
目的・目標（指標）	<p>目的：建築物で採用される代表的な構造形式について、演習を通して理解する。</p> <p>前期目標：木構造の構造概要や特徴を理解し、在来軸組工法における床組や架構の計画ができるようになる。</p> <p>後期目標：鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造概要や特徴を理解し、建物の用途や規模に応じて、適切な構造形式や架構方式が決定できるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	<p>建築設計事務所を主宰し、設計監理業務に従事しながら、建築関連の幅広い知識で資格試験対策についても造詣が深く、的確な授業ができる講師である。</p>			
指 導 内 容				
前 期（2時限）				
週	教程		教程内容	
1	建築一般構造総論		構造概要、構造形式、構造計画、在来工法と枠組壁工法	
2	木構造の木材		木材の性質、長所と短所、比重と強度、木質材料	
3	木構造の基礎		基礎の種類、根切、地業、床下換気口、アンカーボルト	
4	木構造の軸組(1)		軸組部材名称、土台、柱と種類	
5	木構造の軸組(2)		桁、胴差、筋かいの種類	
6	木構造の軸組(3)		梁、火打材、壁の種類、補強方法	
7	木構造の軸組(4)		各種接合部納まり、耐力壁の配置、間柱、貫	
8	木構造の床組(1)		1階床組、床組の構成	
9	木構造の床組(2)		1階床組設計演習	
10	木構造の床組(3)		2階床組、床組の構成	
11	木構造の床組(4)		2階床組設計演習(1)	
12	木構造の床組(5)		2階床組設計演習(2)	
13	木構造の小屋組(1)		小屋組の種類、和小屋と洋小屋、屋根構成部材	
14	木構造の小屋組(2)		切妻屋根設計演習	
15	木構造の小屋組(3)		寄棟屋根設計演習	
16	木構造の階段(1)		階段(1) 直階段	
17	木構造の階段(2)		階段(2) 折返階段	
18	木構造の造作(1)		造作(1) 和室、天井、壁、畳納まり	
19	木構造の造作(2)		造作(2) 和室、床の間、書院	
20	木構造の建具		和風建具、障子、襖、戸襖	
後 期（2時限）				
週	教程		教程内容	
1	鉄骨造の鋼材		鋼材の特徴、許容応力度、鋼材の形状	
2	鉄骨造の基礎(1)		鉄骨造の特徴、長所と短所	
3	鉄骨造の基礎(2)		構造形式、ラーメン構造、トラス構造	
4	鉄骨造の構造(1)		各種接合方法、ボルト接合、ボルトの配置	
5	鉄骨造の構造(2)		溶接接合、突合せ溶接、隅肉溶接	
6	鉄骨造の構造(3)		溶接接合の欠陥、座屈長さ、局部座屈、たわみ	
7	鉄骨造の構造(4)		筋かい(ブレース)、柱脚の種類と用途	
8	鉄骨造の構造(5)		床板、階段、耐火被覆、鉄骨造まとめ	
9	鉄筋コンクリート造の材料		コンクリートと鉄筋の特徴、構造特性、圧縮と引張強度	
10	鉄筋コンクリート造の基礎(1)		鉄筋コンクリート造の特徴、構造計画、柱の配置計画	
11	鉄筋コンクリート造の基礎(2)		鉄筋コンクリート造の原理、破壊形状、構造形式	
12	鉄筋コンクリート造の構造(1)		鉄筋の配筋計画、フック、定着、重ね接手、かぶり厚さ	
13	鉄筋コンクリート造の構造(2)		梁の構造と配筋、せん断補強筋、釣り合い鉄筋比	
14	鉄筋コンクリート造の構造(3)		柱の構造と配筋、せん断補強筋、間隔	
15	鉄筋コンクリート造の構造(4)		柱梁接合部配筋、スラブ配筋、耐力壁配筋、階段配筋	
16	鉄筋コンクリート造の構造(5)		壁式鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造まとめ	
17	その他の構造		鉄骨鉄筋コンクリート造、補強コンクリートブロック造他	
18	基礎地盤		基礎の種類、べた基礎、フーチング基礎、杭、地盤	

専門科目	講義	建築材料	1 学年	前期
目的・目標 (指標)		<p>目的：木材・鋼材。コンクリートなど建物の構造材に使用される材料を中心に、仕上げ材・断熱材・防水材など各種建築材料の特性や使用方法を理解する。</p> <p>前期目標：建物の部位と使用されている建築材料の関係を把握し、設計における仕上げの選定及びディテールの検討ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>建築設計事務所を主宰し、設計監理業務に従事しながら、建築関連の幅広い知識で資格試験対策についても造詣が深く、的確な授業ができる講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	建築材料の概要	建築材料の歴史・規格・環境		
2	木材(1)	木材の種類・特徴		
3	木材(2)	木材の強度・構造・規格・エンジニアリングウッド		
4	コンクリート(1)	セメント・骨材・水		
5	コンクリート(2)	混和材料・コンクリートの性質		
6	コンクリート(3)	コンクリートの調合設計・種類・製品		
7	鋼材(1)	鋼材の工程・特徴・種類		
8	鋼材(2)	鋼材の種類・性質		
9	鋼材(3)	鋼材の性質・腐食と防食・非鉄金属		
10	焼成品	タイルの種類・特徴		
11	ガラスと石(1)	ガラスの歴史・特徴・種類		
12	ガラスと石(2)	石の特徴・分類		
13	左官材料(1)	左官の定義・特徴		
14	左官材料(2)	左官の種類		
15	塗料	塗料の種類、特徴		
16	部位別・性能別材料(1)	床・壁・天井材料		
17	部位別・性能別材料(2)	防水・防火材		
18	部位別・性能別材料(3)	断熱・耐火材料		
19	部位別・性能別材料(4)	防音・吸音材料		
20	まとめ	まとめ		
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	建築施工	1 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：建築物を構築する各工事の実例を中心に、施工手順や施工法等を理解する。</p> <p>後期目標：工事見積りや契約、現地調査、安全管理、工程表及び躯体工事を中心に、建築物を構築するための必要な基礎知識を理解できるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰され、設計監理業務に従事しながら、建築関連の知識が豊富で的確な指導内容で意欲的な授業展開ができる講師である。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期（2時限）				
週	教程	教程内容		
1	施工概要	建築施工	建築施工とは、建築の関係者、建設業の種類、施工業者の選定	
2	建築の施工	施工計画	事前調査、着工前の準備、工程管理	
3	建築の施工	施工管理	工事管理、材料保管、品質管理、安全管理、各種届出、廃棄物	
4	建築測量	測量機器と方法	距離測量・平板測量、水準測量・角測量	
5	地盤調査	概要、本調査	地盤の特徴、土の種類、予備・本調査、載荷・標準貫入試験	
6	仮設工事	概要、共通・直接仮設工事	種類、仮囲い、現場事務所、仮設便所、遣方・足場の種類	
7	土工事	概要、倒壊防止	根切工事と種類、山留壁・支保工の種類、排水工事	
8	地業と地盤改良工事	概要、地盤改良とは	地業・地盤改良の種類と施工法	
9	杭工事	概要、杭の種類・工法	既製杭、各種施工法、場所打ちコンクリート杭	
10	コンクリート工事	概要、種類と品質(1)	環境に対する耐久性、コンクリートの種類	
11	コンクリート工事	種類と品質(2)	コンクリート強度、材料、用語、検査と試験	
12	コンクリート工事	運搬と打込み	コンクリートの運搬、打込み、亀裂、仕上がり	
13	型枠工事	概要、材料、加工、組立、取外し	型枠の材料、支保工、存置期間、支柱の盛替え、型枠の組立て	
14	鉄筋工事	概要・材料・加工	鉄筋の種類、切断、曲げ加工、定着と継手	
15	鉄筋工事	配筋・組立	配筋の規則、かぶり厚さ、鉄筋継手、各部位の配筋	
16	鉄骨工事	概要、材料、工作一般	形鋼、接合の種類、作業工程・工場作業、施工計画	
17	鉄骨工事	接合	高力ボルト、溶接の種類、溶接の有害な欠陥、検査	
18	鉄骨工事	建方	建方、アンカーボルト、揚重機	

専門科目	講義	建築施工	2 学年	前期
目的・目標 (指標)		<p>目的：建築物を構築する各工事の実例を中心に、施工手順や施工法等を理解する。</p> <p>前期目標：建築現場における各種工事を中心に、建築現場技術者としての基礎ができるようになる。また、2級 建築施工管理技術検定 (学科) 試験の合格を目指す。</p>		
実務家教員の実務経験		設計事務所を主宰され、設計監理業務に従事しながら、建築関連の知識が豊富で的確な指導内容で意欲的な授業展開ができる講師である。		
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	防水工事(1)	概要、材料、施工法	メンブレン防水の種類、密着工法、絶縁工法等、シーリング	
2	防水工事(2)	シーリング	シーリングの種類と工法	
3	補強コンクリートブロック工事	概要、材料、施工法	空洞コンクリートブロック、充填材、鉄筋の定着、配筋	
4	石工事(1)	概要	内外装湿式工法等	
5	石工事(2)	概要	内外装乾式工法等	
6	タイル工事	概要、目地、試験	材料、施工法、伸縮目地、誘発目地、施工後の確認と試験	
7	金属工事	概要	表面処理、アンカー工事	
8	左官工事	概要、材料	下地材の種類、仕上げ工法、左官工事の材料の種類	
9	建具工事	概要、鋼製建具	建具の分類と工法、アルミサッシ・スチールサッシ等	
10	ガラス工事	概要	種類と品質、取り扱い、建込み	
11	塗装工事	概要、材料と施工法	作業環境、下地と素地こしらえ、材料と用途、塗装法	
12	内装工事	概要、壁	材料の使用法、下地の種類、壁仕上げ	
13	内装工事	天井、床	下地の種類、仕上材の種類、張り方、シートとタイル、塗床	
14	屋根工事(1)	概要、工法	屋根に用いる材料、工法	
15	断熱工事	概要、材料、施工法	断熱材の種類、工法の種類、各部の断熱工法	
16	ALC・PC aパネル工事	概要、材料、施工法	材料、施工、カーテンウォール	
17	排水工事	概要	材料、排水桝等	
18	設備工事	概要、設備(1)	電気、給排水衛生	
19	設備工事	設備(2)	空調、昇降機	
20	まとめ		まとめ	
後 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	建築積算	2 学年	前・後期
目的・目標 (指標)	<p>目的：積算全般の概念や建設業における積算業務の役割を把握し、「建築数量積算基準・同解説」に基づいて、各工事の必要な数量を実際に拾うことができるようになる。更に積算士補の資格における合格を目指す。</p> <p>前期目標：建築数量積算の基本である数量拾いの計算ルールを理解したうえで、計画数量（仮設、土工事）と設計数量（仕上工事）の通則を習得することができる。</p> <p>後期目標：実際の設計図の演習問題で数量算出を習得し、躯体（RC 造、鉄骨）を中心に数量を拾うことができるようになる。</p>			
実務家教員の実務経験	設計事務所を主宰され、設計監理業務に従事しながら、建築関連の知識が豊富で的確な指導内容で意欲的な授業展開ができる講師である。			
指 導 内 容				
前 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	積算の概要	建築業界内における積算業務の役割		
2	積算の概要	積算業務の種類		
3	積算の概要	概算積算		
4	仮設工事の積算	仮設工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
5	仮設工事の積算演習(1)	仮設工事演習及び同解説		
6	仮設工事の積算演習(2)	仮設工事演習及び同解説		
7	杭工事の積算	杭工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
8	土工事の積算	土工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
9	土工事の積算演習(1)	土工事演習		
10	土工事の積算演習(2)	土工事演習同解説		
11	木工事の積算	木工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
12	木工事の積算演習(1)	木工事演習		
13	木工事の積算演習(2)	木工事演習同解説		
14	内部仕上の積算	内部仕上の種類、通則、計測・計算の基準解説		
15	内部仕上の積算演習(1)	内部仕上げ演習(1)		
16	内部仕上の積算演習(2)	内部仕上げ演習(2)、内部仕上げ演習同解説		
17	外部仕上の積算	外部仕上の種類、通則、計測・計算の基準解説		
18	外部仕上の積算演習	外部仕上げ演習、外部仕上げ演習同解説		
19	仕上のまとめ	内部仕上げ工事計算集計		
20	仕上のまとめ	外部仕上げ工事計算集計		
後 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	鉄骨工事の積算(1)	鉄骨工事の種類、通則、計測・計算の基準解説(1)		
2	鉄骨工事の積算(2)	鉄骨工事の種類、通則、計測・計算の基準解説(2)		
3	鉄骨工事の積算 演習(1)	鉄骨工事演習		
4	鉄骨工事の積算 演習(2)	鉄骨工事演習同解説		
5	コンクリート・型枠の積算(1)	コンクリート・型枠工事の種類、通則、計測・計算の基準解説		
6	コンクリート・型枠の積算(2)	コンクリート・型枠工事演習		
7	コンクリート・型枠の積算(3)	コンクリート・型枠工事演習同解説		
8	鉄筋工事の積算(1)	鉄筋工事の種類、通則、計測・計算の基準解説(1)		
9	鉄筋工事の積算(2)	鉄筋工事の種類、通則、計測・計算の基準解説(2)		
10	鉄筋工事の積算(3)	鉄筋工事演習		
11	鉄筋工事の積算(4)	鉄筋工事演習同解説		
12	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(1)	コンクリート工事等の種類、通則、計測・計算の基準解説		
13	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(2)	コンクリート・型枠・鉄筋工事演習		
14	コンクリート・型枠・鉄筋の積算(3)	コンクリート・型枠・鉄筋工事演習同解説		
15	建具、塗装の積算	建具・塗装の種類、通則、計測・計算の基準解説		
16	概算積算	概算積算の種類と計算法・概算積算演習同解説		
17	共通仮設・諸経費	共通仮設の種類、通則、計測・計算・諸経費の基準解説		
18	内訳書の書き方	費目内訳と部位別内訳		

一般科目	講義	CAD 演習	1 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：CAD の基本操作と作図練習を行い、CAD の特性と建築図面の描き方の基本を習得する。</p> <p>後期目標：作図課題における表現を CAD にて緻密な作図表現ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築士事務所を主宰され、設計業務に加え、当該演習内容に即した指導経験も豊富で、巧みな指導法についても定評がある。		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1	ガイダンス		PC リテラシー、CAD 概要説明	
2	AutoCAD 基礎演習(1)		コマンド練習(1)	
3	AutoCAD 基礎演習(2)		コマンド練習(2)	
4	AutoCAD 基礎演習(3)		コマンド練習(3)	
5	AutoCAD 基礎演習(4)		コマンド練習(4)	
6	AutoCAD 基本作図演習(1)		基本的な建築図面作図方法(1)	
7	AutoCAD 基本作図演習(2)		基本的な建築図面作図方法(2)	
8	AutoCAD 基本作図演習(3)		基本的な建築図面作図方法(3)	
9	AutoCAD 基本作図演習(4)		基本的な建築図面作図方法(4)	
10	AutoCAD 基本作図演習(5)		基本的な建築図面作図方法(5)	
11	AutoCAD 応用操作演習(1)		応用的なコマンド操作(1)	
12	AutoCAD 応用操作演習(2)		応用的なコマンド操作(2)	
13	AutoCAD 応用作図演習(1)		実務的建築図面作成(1)	
14	AutoCAD 応用作図演習(2)		実務的建築図面作成(2)	
15	AutoCAD 応用作図演習(3)		実務的建築図面作成(3)	
16	AutoCAD 応用作図演習(4)		実務的建築図面作成(4)	
17	AutoCAD 応用作図演習(5)		実務的建築図面作成(5)	
18	まとめ		まとめ・講評	

一般科目	講義	BIM 演習	2 学年	前期
目的・目標（指標）		<p>目 的：建築業界において必要とされる様々なデジタルビジネスソリューションを理解する。BIM の理解により設計課題のデジタル的設計手法の拡充ができるようになる。</p> <p>前期目標：Autodesk Revit を用い、BIM 操作の基本を理解し、設計課題に役立てることが出来るようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>該当関連分野について講師経験が豊富であり、業界の事情にも造詣が深く、演習内容についても的確な指示・指導ができる適正な講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1	BIM 概論		BIM 概論、初期動作確認、インターフェースの確認	
2	BIM 基本設定、基本操作(1)		基本演習 (1)	
3	BIM 基本設定、基本操作(2)		基本演習 (2)	
4	BIM 基本設定、基本操作(3)		基本演習 (3)	
5	BIM 基本演習(1)		基本データ作成 (1)	
6	BIM 基本演習(2)		基本データ作成 (2)	
7	BIM 基本演習(3)		基本データ作成 (3)	
8	BIM モデル作成演習(1)		建築 BIM モデルの作成(1)	
9	BIM モデル作成演習(2)		建築 BIM モデルの作成(2)	
10	BIM モデル作成演習(3)		建築 BIM モデルの作成(3)	
11	BIM モデルの活用(1)		プレゼンテーション(1)	
12	BIM モデルの活用(2)		プレゼンテーション(2)	
13	BIM モデルの活用(3)		プレゼンテーション(3)	
14	BIM 応用演習(1)		モデリング演習(1)	
15	BIM 応用演習(2)		モデリング演習(2)	
16	BIM 応用演習(3)		モデリング演習(3)	
17	設計課題作品演習(1)		課題作品の制作(1)	
18	設計課題作品演習(2)		課題作品の制作(2)	
19	設計課題作品演習(3)		課題作品の制作(3)	
20	まとめ		まとめ・講評	
後 期（2 時限）				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	講義	インテリア設計	2 学年	後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：家具デザイン、照明デザイン、集合住宅のリフォーム課題を通して《人が快適に暮らす》ためのインテリアデザインを理解する。</p> <p>後期目標：インテリアやエレメントのデザイン様式の歴史と現在のスタイルを知り、必要な基本的なインテリアの知識と表現が出来るようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>設計事務所を主宰し、設計監理業務に関する知識を通して計画・インテリア・設計の関与に関する造形が深く、講師としての指導経験も豊富な講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程	教程内容		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期 (2 時限)				
週	教程	教程内容		
1	インテリアの予備知識(1)	インテリア全般範囲・歴史(日本)・歴史(西洋)		
2	インテリアの予備知識(2)	法規・人間工学・全般計画・文様		
3	部位のつくり(1)	内装(床・壁・天井・造作・階段等)		
4	部位のつくり(2)	開口部・建具・金物		
5	部位のつくり(3)	外装(床・壁・屋根・外構等)		
6	素材とエレメント(1)	照明・家具・ウィンドウトリートメント		
7	素材とエレメント(2)	カーペット・木材・加工材・畳等		
8	素材とエレメント(3)	テキスタイル・樹脂系材料・塗料		
9	素材とエレメント(4)	左官・タイル・石材等		
10	素材とエレメント(5)	ガラス・金属・機能性材料等		
11	住居系インテリア計画(1)	住宅設備(水回り)		
12	住居系インテリア計画(2)	高齢者や車椅子や幼児対応等		
13	住居系インテリア計画(3)	色彩理論とインテリア		
14	住居系インテリア計画(4)	リビング・ダイニング・キッチン		
15	住居系インテリア計画(5)	寝室・子ども部屋・和室・玄関		
16	住居系インテリア計画(6)	趣味室・デザイナーズ作品等		
17	店舗インテリア計画(1)	飲食店の計画・物販の計画		
18	まとめ	まとめ		

専門科目	演習	建築士設計製図	2 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：2級建築士設計製図の課題を通して、基本を理解する。 後期目標：計画・法規・一般構造を理解し、設計手法や設計作業の迅速化及び作図表現が出来るようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		<p>建築設計業を主宰運営され、当該演習科目での幅広い知識と教養をもって、高い指導力と授業運営能力を発揮できる講師である。</p>		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期（4 時限）				
週	教程		教程内容	
1	2級建築士設計製図試験の概要		2級建築士設計製図試験の概要	
2	建築士製図 模擬設計課題(1)	課題説明	課題文の解説、課題の特徴、作図手順説明	
3		エスキース(1)	平面図エスキース(1)	
4		エスキース(2)	平面図エスキース(2)、	
5		エスキース(3)	立面図・断面図・構造伏図等エスキース	
6		作図(1)	各階平面図(1)	
7		作図(2)	各階平面図(2)	
8		作図(3)	各階平面図(3)	
9		作図(4)	各階平面図(4)	
10		作図(5)	平面図以外の図面(1)	
11		作図(6)	平面図以外の図面(2)	
12		作図(7)	平面図以外の図面(3)	
13	建築士製図 模擬設計課題(2)	課題説明	課題文の解説、課題の特徴	
14		作図説明(1)	作図手順説明	
15		作図(1)	各種図面の作図(1)	
16		作図(2)	各種図面の作図(2)	
17		作図(3)	各種図面の作図(3)	
18	まとめ		まとめ	

専門科目	実習	設計製図	1 学年	前・後期
目的・目標（指標）		<p>目的：設計製図の基本的事項を理解し、標準的な木構造住宅と鉄骨造建集会場の製図表現方法を理解する。</p> <p>前期目標：木構造と鉄骨造の適切な表現技法を身に着ける。</p> <p>後期目標：適切な表現技法を基に、創造的な木構造住宅の設計ができるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築士事務所を長年主宰運営、設計監理業を主たる業務とし、幅広い知識を実習・演習に貢献を果たしている。		
指 導 内 容				
前 期（8 時限）				
週	教程		教程内容	
1	製図実習ガイダンス・基礎技法の練習 1		製図実習ガイダンス・線の練習	
2	基礎技法の練習 2		各種壁構造	
3	木造 2 階建住宅写図(1)		木造 2 階建住宅写図説明	
4	木造 2 階建住宅写図(2)		平面図(兼配置図)(1)	
5	木造 2 階建住宅写図(3)		平面図(兼配置図)(2)	
6	木造 2 階建住宅写図(4)		断面図	
7	木造 2 階建住宅写図(5)		立面図	
8	木造 2 階建住宅写図(6)		床伏図	
9	木造 2 階建住宅写図(7)		軸組図	
10	木造 2 階建住宅写図(8)		矩計図(1)	
11	木造 2 階建住宅写図(9)		矩計図(2)	
12	木造 2 階建住宅写図(10)		まとめ・課題提出	
13	鉄骨造 2 階建集会場写図(1)		鉄骨造 2 階建集会場写図説明	
14	鉄骨造 2 階建集会場写図(2)		平面図(1)	
15	鉄骨造 2 階建集会場写図(3)		平面図(2)	
16	鉄骨造 2 階建集会場写図(4)		屋根伏図(兼配置図)	
17	鉄骨造 2 階建集会場写図(5)		断面図	
18	鉄骨造 2 階建集会場写図(6)		立面図	
19	鉄骨造 2 階建集会場写図(7)		矩計図	
20	鉄骨造 2 階建集会場写図(8)		まとめ・課題提出	
後 期（8 時限）				
週	教程		教程内容	
1	木造 2 階建専用住宅設計(1)		課題説明	
2	木造 2 階建専用住宅設計(2)		エスキース(1)	
3	木造 2 階建専用住宅設計(3)		エスキース(2)	
4	木造 2 階建専用住宅設計(4)		1 階床伏図	
5	木造 2 階建専用住宅設計(5)		2 階床伏図	
6	木造 2 階建専用住宅設計(6)		小屋床伏図	
7	木造 2 階建専用住宅設計(7)		配置図兼 1 階平面図(1)	
8	木造 2 階建専用住宅設計(8)		2 階平面図	
9	木造 2 階建専用住宅設計(9)		屋根伏図	
10	木造 2 階建専用住宅設計(10)		断面図	
11	木造 2 階建専用住宅設計(11)		立面図	
12	木造 2 階建専用住宅設計(12)		矩計図(1)	
13	木造 2 階建専用住宅設計(13)		矩計図(2)	
14	木造 2 階建専用住宅設計(14)		模型制作(1)	
15	木造 2 階建専用住宅設計(15)		模型制作(2)	
16	木造 2 階建専用住宅設計(16)		設計主旨・概要	
17	総合提出・作品閲覧		総合提出・作品閲覧	
18	発表会及び講評		発表及びディスカッション	

専門科目	実習	設計製図	2 学年	前期
目的・目標（指標）		<p>目的：意匠設計の一連のプロセスを理解した上で、構造や施工の分野で実務に直結する技術を習得する。</p> <p>前期目標：建築設計製図集を基に施工図・詳細図を作図し、基礎的な構造図及び施工図を理解できるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築設計業を中心として、設計監理業務に関する知識が深く、豊富な実績を持っている。		
指 導 内 容				
前 期（8 時限）				
週	教程		教程内容	
1	ガイダンス・基本講義		RC 造公共建築設計の考え方	
2	卒業設計テーマの決定及び発表		計画・法規・設備・RC 造の考え方	
3	設計製図(1)		エスキース(平面系)(1)	
4	設計製図(2)		エスキース(平面系)(2)	
5	設計製図(3)		エスキース(立面系)(3)	
6	設計製図(4)		スタディー模型による検討	
7	設計製図(5)		エスキース一式提出	
8	設計製図(6)		配置図・平面図作図(1)	
9	設計製図(7)		配置図・平面図作図(2)	
10	設計製図(8)		配置図・平面図作図(3)	
11	設計製図(9)		立面図・断面図作図(1)	
12	設計製図(10)		立面図・断面図作図(2)	
13	設計製図(11)		主要図面中間審査及び修正指導	
14	設計製図(12)		展開図・建具表作図(1)	
15	設計製図(13)		展開図・建具表作図(2)	
16	設計製図(14)		展開図・建具表作図(3)	
17	設計製図(15)		プレゼンテーションについて	
18	設計製図(16)		コンセプト・設計概要作成	
19	設計製図(17)		模型・パース	
20	設計製図(18)		提出・発表	
後 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				

専門科目	実習	卒業設計	2 学年	後期
目的・目標（指標）		<p>目的：社会的な問題や建築の可能性、その用途の達成しなければいけないものなどに着眼し、その間に相応しい建築を設計する。</p> <p>後期目標：RC 造の公共施設の基本的な考えを理解した上で、社会的な提案ができるようになり、合わせてこれまでに習得した学習成果を総合的に発揮し、創造性のある設計と実施設計図が描けるようになる。</p>		
実務家教員の実務経験		建築設計業を中心として、設計監理業務に関する知識が深く、豊富な実績を持っている。		
指 導 内 容				
前 期				
週	教程		教程内容	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期（8 時限）				
週	教程		教程内容	
1	卒業設計(1)		卒業設計テーマの決定及び発表	
2	卒業設計(2)		エスキース（平面系）（1）	
3	卒業設計(3)		エスキース（平面系）（2）	
4	卒業設計(4)		エスキース（立面系）（3）	
5	卒業設計(5)		スタディー模型による検討	
6	卒業設計(6)		エスキース一式提出	
7	卒業設計(7)		配置図・平面図作図（1）	
8	卒業設計(8)		配置図・平面図作図（2）	
9	卒業設計(9)		配置図・平面図作図（3）	
10	卒業設計(10)		立面図・断面図作図（1）	
11	卒業設計(11)		立面図・断面図作図（2）	
12	卒業設計(12)		主要図面中間審査及び修正指導	
13	卒業設計(13)		展開図・建具表作図（1）	
14	卒業設計(14)		展開図・建具表作図（2）	
15	卒業設計(15)		プレゼンテーションについて	
16	卒業設計(16)		コンセプト・設計概要作成	
17	卒業設計(17)		模型・パース	
18	卒業設計(18)		提出・発表	

専門科目	実習	プレゼンテーション	1 学年	前・後期
目的・目標 (指標)		<p>目的：透視図法の各種図法を理解し、作図及び着色における一連の過程とその技術を習得する。また、建物の空間認識を深め、立体としての政策技術を養う。</p> <p>前期目標：物の形状を正確に表現するための知識や、空間的思考力と立体的概念を学び、透視図法を用いた立体表現ができるようになる。</p> <p>後期目標：平面図や立面図等の基本図面におけるプレゼンテーション技法を習得し、表現できるようになる。また、立体造形としての実物表現について理解する。</p>		

指 導 内 容

前 期 (8 時限)

週	教程	教程内容
1	ガイダンス 透視図法原理 足線法基本原理	基礎演習・空間の立体的把握
2	平行透視足線法 作図	住宅内観作図
3	内観パース 着色	住宅内観着色
4	成角透視足線法 作図(1)	住宅外観作図(1)
5	成角透視足線法 作図(2)	住宅外観作図(2)
6	外観パース 着色	住宅外観着色
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		

後 期 (8 時限)

週	教程	教程内容
1	木造軸組み演習(1)	木造軸組模型製作(1)
2	木造軸組み演習(2)	木造軸組模型製作(2)
3	木造軸組み演習(3)	木造軸組模型製作(3)
4	色鉛筆・パステル 着色	平面図・立面図立体表現効果
5	設計製図課題パース(1)	住宅パース(1)
6	設計製図課題パース(2)	住宅パース(2)
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		

専門科目	実習	総合演習	2 学年	前期
目的・目標 (指標)		<p>目的：座学では得られない各種実験・実習・演習を通して材料、施工、測量、設備、インテリアに関する知識を深める。</p> <p>前期目標：木材・鋼材・コンクリートの力学的性質を各種実験を通して理解し、測量実習の基礎知識と技術を身に付け、設備機器を使用し給排水衛生設備について理解を深める。</p> <p>後期目標：実習を通して基礎構造の基礎知識と技術を身に付け、実験実測を通して空気調和換気設備・電気設備について理解を深める。各種素材・照明等インテリアについて理解を深める。</p>		
指 導 内 容				
前 期 (8 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	木材・鋼材・コンクリート 概論		木材・鋼材・コンクリートの特性	
2	木材・鋼材試験		木材・鋼材 圧縮、引張試験	
3	建築測量実習		レベル・トランシット基本操作	
4	セメント・コンクリート 調合		調合強度・水セメント比・細骨材率の算定、空気量・スランプ 試験	
5	セメント・コンクリート 試験		コンクリート圧縮試験 割裂引張強度試験	
6	給排水衛生設備システムと機器		給排水衛生設備システムの基本	
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
後 期 (8 時限)				
週	教 程		教 程 内 容	
1	建築デザイン分析		公共施設現地調査・分析	
2	鉄筋組立実習		基礎構造墨出し、鉄筋組立	
3	空気調和換気設備・電気設備のシステム		空調システムや電気設備システムの設備機器	
4	インテリア演習(1)		各種材料研究	
5	インテリア演習(2)		内装計画演習	
6	インテリア演習(3)		照明計画演習	
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				